



HbA1c国際標準化に関する基本方針について

平成 23 年 12 月 12 日に「HbA1c 国際標準化に関するマニファクチャラー会議」が開催され、日本糖尿病学会 糖尿病関連検査の標準化に関する委員会から HbA1c 国際標準化に関する基本方針が示されましたのでお知らせいたします。

(1) 国際標準化された新しい HbA1c について

- ① 日常臨床では、平成 24 年 4 月 1 日から、HbA1c (NGSP) を用い、HbA1c (JDS) を併記する。
- ② 新しく国際標準化された HbA1c は “HbA1c(NGSP)” と表記し、従来の HbA1c は “HbA1c(JDS)” と表記する。(但し、文字数などの制約があるシステムでは、HbA1c (NGSP) を「A1C」とし、従来の HbA1c (JDS) を「HbA1c」と表記しても良い。)
- ③ HbA1c (NGSP) は、従来の HbA1c (JDS) と次の関係式で表現する。
(関係式) $\text{HbA1c(NGSP)} = 1.02 \times \text{HbA1c(JDS)} + 0.25$
(換算式) $\text{HbA1c(JDS)} = 0.980 \times \text{HbA1c(NGSP)} - 0.245$
- ④ 特定健診・保健指導では、平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までの期間、HbA1c (JDS) のみを報告する。平成 25 年 4 月 1 日以降の運用は、関係団体と協議を行い決定する。

(2) その他 (基準範囲、診断基準 等)

- ① HbA1c (NGSP) の基準範囲として、下限 4.6%、上限 6.2%を使用する。
- ② HbA1c (NGSP) での糖尿病の診断基準は、6.5%とする。
- ③ 平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までの期間、特定健診・保健指導での判定値として、従来の保健指導判定値 5.2%、受診勧奨判定値 6.1%を使用する。(判定値は共に HbA1c(JDS))。

(3) 下関市医師会臨床検査センターの対応について

- ① 平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までは、従来どおり JDS 値を測定し、関係式より NGSP 値を計算します。
- ② 医療機関用・患者さま用報告書ともに、HbA1c (JDS) 値と HbA1c (NGSP) 値を併記します。
報告書の従来の HbA1c の位置に JDS 測定値を印字します。HbA1c (NGSP) 計算値は、左下の欄に印字します。
- ③ 平成 25 年 4 月 1 日からは HbA1c (NGSP) のみの報告となります。
- ④ 特定健診は平成 25 年 3 月 31 日まで HbA1c (JDS) のみの報告となります。



世界では、顕微鏡用のガラスは 1600 年頃にドイツで始まったと言われている。

日本では、松浪硝子工業が、明治 37 年、これまで培っていた薄玻璃鏡の技術を生かし、顕微鏡用のカバーガラス、スライドガラスの日本での製造を行うため、当時、理化学・精密機械学の権威者であった島津製作所の二代目島津源蔵氏を訪ね、同氏の指導を受ける。

当時、医学界の発展はめざましく、特に細菌学の研究が進歩するに従い、顕微鏡のカバーガラス、スライドガラスの需要は急激に増加しており、輸入品は高価であったため、国産品の完成が待たれていた。

明治 38 年、数々の研究の結果、ついに国産初の理想的な白色（透明）スライドガラスの製造に成功する。

大正 8 年、第一次世界大戦のため望遠鏡用のカバーガラス、スライドガラスの輸入は途絶え、松浪硝子が国内に製品を供給する役割を担った。

昭和 4 年、米国より、アルカリ成分の溶出の少ない保存性の高いスライドガラスの開発要望があり、研究の結果、開発に成功。米国への供給を開始し、その後世界に広がる。

昭和 27 年、研究開発を続けていた硼珪酸硝子による顕微鏡カバーガラスの開発に成功。耐風化性の画期的な向上は、内外の注目を集める。

昭和 39 年、品質第一を信条として、顕微鏡の低屈折率化や、公害対策における鉛公害を考慮し従来のカバーガラス組成から鉛成分を除外した製品を完成。

その後も、医療の高度化へのニーズに応えるため、絶え間ない研究開発を行ってきており、製品は日々進化している。

資料提供；松浪硝子工業株式会社

編集後記



4 月といえば、新年度の始まり。いろいろな場面で新しいスタートの時期です。
桜咲く、入学式、入社式 etc. 全てには始まりがあります。
昨年 3 月 11 日の大地震、大津波そして原発事故。あれから一年が過ぎました。
被害にあった方々の中には、4 月から新しいスタートを切ることになっていた方もいたでしょう。
今でも、心が痛みます。
1 年が過ぎた今だからこそできる事はないか、考える時かもしれません。

編集委員 平田祐子・亀井美由紀・藤井華子・片山清香
発行責任者 椿 安志

〒751-0831 下関市大学町 2 丁目 1-2

下関市医師会臨床検査センター

TEL 083-252-2188 fax 083-255-0726

TEL 083-252-3794 (検査室直通)